

# 令和5年度学校関係者評価委員会議案

学校法人常松学園札幌工科専門学校  
学校関係者評価委員会

## 議題

令和5年度前期の実施状況報告

- 開催日時 令和5年11月18日(土) 10:00～11:00
- 場 所 札幌工科専門学校 第1校舎 会議室
- 委 員 <出席>  
下原 英一 (株)イーエス総合研究所 取締役執行役員業務企画部長  
(企業等委員)  
嘉屋 幸浩 (株)園建 代表取締役 (企業等委員)  
山口 修二 一般社団法人札幌建設業協会 専務理事兼事務局長 (業界関係者)  
古城 学 常松学園札幌工科専門学校同窓会長  
松本 勲 モエレ町内会員  
三上 敬司 校長  
一色 博介 土木系主任  
岩瀬 聡 造園系主任  
<オブザーバー>  
常松 哲 理事長  
伊藤 幸一 理事  
<記録>  
亀田 沙織 事務局 課長代理  
<欠席>  
奥内 尚史 一般社団法人札幌造園協会 理事長 (業界関係者)
- 資 料 令和5年度前期 学校の取り組み状況に関する報告

### ※学校関係者評価委員会

文科省の示す「学校評価ガイドライン」に則り、下記の項目について全教職員による学校自己評価を実施している。学校関係者評価委員会は、その自己評価結果を評価し、自己評価結果の客観性・透明性を高めることや、専修学校と密接に関係する者の理解促進、連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的として行う。

- |               |         |           |
|---------------|---------|-----------|
| I 教育理念・目標     | II 学校運営 | III 教育活動  |
| IV 学修成果       | V 学生支援  | VI 教育環境   |
| VII 学生の受け入れ募集 | VIII 財務 | IX 法令等の遵守 |

# 令和5年度前期 学校の取り組み状況に関する報告

※グレー色は前回の内容

## I 教育理念・目標

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

### 1 報告

令和4年度卒業生状況（表-1）

単位：人

学科	入学者			中退者	卒業者	就職者	2級施工管理		その他 資格 合格者	過去3年 間離職者
	定員	入学者	入学区分				1次合格者	割合		
土木	25	21	一般 14 社会人 7	2	19	18	1級土木 1	—	測量士補 19	10/75 13%
							土木 18	100%		
							造園 1	5%		
造園	15	17	一般 1 AO12 学校推薦 1 社会人 1 長期高度 2	2	15	14	土木 9	60%	技術士補 (森林) 2	3/22 13%
							造園 15	100%		
測量	15	18	一般 1 社会人 1 企業 16	0	18	18	なし	—	測量士 1 測量士補 17	4/54 7%
施工	15	23 復学 1 舎	企業 23	0	23	23	土木 21	91%		8/77 10%
							造園 2	9%		

（表-2）別紙

造園建設への就職希望者がいない。

### 2 改善方針

ポストコロナに向けて IT 化を進めるが、教育の主体は学校における対面授業を主とし、遠隔授業に関してはあくまでも災害等緊急時や外部交流などに使用する。

学科により教育目標①②③に対し目標達成のための課題に違いがある。

①基礎学力の向上を図る ②基礎的な専門知識と技術の習得 ③素直な心と良き社会人となるためのマナーの涵養

各クラスに合わせた教育目標の達成のため主任制とし、業務及び専門を理解したクラス指導担任がクラス毎に異なる課題に対応し、学生募集から就職指導まで一貫として教育指導を行う体制にする。学校業務については IT 化をすすめ、協働で効率的に行う体制とする。

造園緑地科では1年生の早い段階から、造園建設にかかわる現場など業務に関する講演などを実施し、施工管理技士の活躍できる仕事や企業などの理解を促す。

### 委員の意見

（下原）中退者4名の理由は？

（三上）土木は授業料未払いで留年、学力不振で留年（測量の課題未提出→補講→遅刻2回→留年）、造園は学力不振（数学）、進路変更だった。

（下原）施工管理科の2級土木施工管理が100%でなかった理由は？

（三上）本人の努力不足が伺える。

（下原）企業側への説明は？企業は学校に期待しているので、不合格の場合のフォローをきちんとする必要がある。企業側にも、最低限の学力と本人の努力が必要であることを理解して委託生を送ってもらう必要がある。

（三上）担任を通して連絡している。

## <令和5年度前期の報告>

### 1) 社会人マナーについて

遅刻・欠席を繰り返す学生が複数おり、連絡をしない無断欠席者もいる。一般学生のみならず企業委託生にも自覚が不足する者がいる。担任より本人への注意、加えて保護者や企業へも密に連絡し指導にあたっている。コロナの影響で高校時代にオンライン環境に慣れてしまっていたり、基本的な生活習慣が確立されていなかったりしている。社会の求める人材像を理解させるよう今後も継続して指導する。

### 2) 業務の効率化

イーエス総研に勤怠・経理システムが導入され、それに則って申請を行うようになった。学内の教務に関することは、前期中は特筆すべき改善は行われていない。IT化については後述する。

### 3) 学生の基礎学力

例年と同等レベルの入学試験で入学生を選抜しているが、数学の平均点が低くなっている。

入学試験（数学Ⅰ・100点満点）の平均点（表-1）

（点）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
全体	67.8	67.5	62.6	58.5
土木	71.1	75.6	62.3	56.2
造園	64.8	80.0	97.0	—
測量	66.8	64.1	63.7	62.3
施工	65.6	63.9	60.4	57.4

※令和6年度は11月までの試験結果

※不合格者も含む

※造園はAOや推薦入学が多いため一般受験のデータ数が少ない

新入生学力試験（数学・100点満点）の平均点（表-2）

（点）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
全体	33.1	37.5	33.8
土木	36.6	42.6	35.7
造園	39.9	44.1	47.2
測量	26.3	35.7	37.2
施工	28.3	32.7	24.3

## 委員の意見

（下原）社会人マナーについて、遅刻・欠席が目立つのは今までもそうなのか？今年が特にそうなのか？

（三上）例年もあったが、今年は特に多く見られる。

（下原）学力低下の原因は何だと思われるか？

(三上) 4年制大学に進学する生徒が多く、そこから漏れた生徒が専門学校に来ていると考える。給付奨学金の影響で、家庭困窮の生徒も専門学校ではなく大学に行けるようになった。

(下原) 遅刻・欠席について、保護者や企業に連絡してどのような反応か？

(一色) 18歳以上成人なのであまり連絡しないようにしてきたが、連絡することもある。保護者は、子どもに言っても聞かないから学校にお願いしますという反応。高校3年間のオンライン授業により、遅刻・欠席に対する罪悪感や自分が損をするという感覚が鈍っている。

(下原) ここで感覚を修正する必要がある。本人のためにならないし、他の学生へも負の影響がある。企業側も委託生の責任を果たすよう指導する。学校として対策する必要がある。

(下原) 学力の低い学生が増えると、教員にも負担ではないか。

(三上) 負担はあるが、入学させた以上は教育していく考え。

## II 学校運営

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

### 1 報告

令和4年度入学生の合格状況(表-3)

	応募総数	① 合格						② 不合格	③ 受験辞退・欠席	④ 合格辞退	入学	
		一般	学校推薦	指定校推薦	社会人	企業委託	AO					合計
土木	19	9			4	4		17		2		17
造園	9			3	1		5	9			1	8
測量	20	1			1	17		19	1		1	18
施工	23					22		22	1			22
合計	71	10	0	3	6	43		66	2	2	2	65

令和5年度入学生の合格状況(表-4)

	応募総数	① 合格						② 不合格	③ 受験辞退・欠席	④ 合格辞退	入学	
		一般	学校推薦	指定校推薦	社会人	企業委託	AO					合計
土木	23	18			2	2		22	1		3	19
造園	9	1	1	2			5	9				9
測量	22					21		21	1			21
施工	24	1			1	22		24				24
合計	78	20	1	2	3	45	5	76	2	0	3	73

### 2 改善方針

- 1) 1年制施工管理科は全てが土木コースを希望しており造園コースの希望者はいない。造園建設企業へのアンケートによると、工事受注の観点から土木工事を主体とした造園施工管理技士が必要であることから、造園コー

- スでは土木工事を中心に造園工事に関する科目を設定し、在学中に2級土木および造園施工管理技術検定1次試験の取得が可能なカリキュラムの編成を行い、造園コースへの企業委託生を募る。
- 2) ポストコロナとして学校行事の教育的意味を再確認し、行事実施体制をつくり実施する。
- 3) 教育活動以外で業務についてもIT化により効率を計り、教育活動に注力できる体制を作る。

#### 委員の意見

- (下原) 1年制で造園施工1次検定は今までやっていなかったということか？
- (三上) 施工管理科は環境土木コースと造園コースを設置しており、造園コースは造園を主体とするカリキュラムになっているが、入学者が少ない。造園系の企業であっても、工事の発注・受注要件を勘案すると、環境土木コースの内容の方が必要との話である。
- (岩瀬) 数年前に造園工事の発注方式が変わって、土木工事の中に造園を付帯する形となっている。そのため、企業は土木を主体として勉強させたいと考えている。造園コースの内容を企業の求める形にしたい。

### <令和5年度前期の報告>

令和6年度入学生の合格状況 (表-3)

11月13日現在

	応募総数	① 合格							② 不合格	③ 受験辞退・欠席	④ 合格辞退	入学
		一般	学校推薦	指定校推薦	社会人	企業委託	AO	合計				
土木	11	7				2		9	1			
造園	7		2	3			1	6				
測量	15				2	9		11				
施工	21					16		16				
合計	54	7	2	3	2	27	1	42				

#### 1) 学生数の確保

応募総数の昨年度同時期・・・土木 15、造園 5、測量 17、施工 22、合計 59

環境土木工学科の希望者が減少している。原因として、18歳人口の減少、大学進学者の増加、コロナ収束により夢・憧れ系学科への志望者回復、AO入試などによる受験早期化などが考えられる。測量科と施工管理科は引き続き企業委託生が定員以上に集まっている。現時点の見込みで、測量科は16名、施工管理科の土木コースは25名、造園コースにも1名から出願される予定。

#### 2) 学校行事

9月に体育大会、10月には4年ぶりの学園祭を行うことができた。学生も教員も例年の様子がわからないため、各部門で課題はあったものの、地域住民や保護者、卒業生合わせて約250人が来校され盛況であった。

#### 3) 業務効率化

教職員個人用のノートPCを購入した。Microsoft365を使用し、徐々に授業や教務のIT化を進めていく。構築については北海道オフィス・マシン様に助言いただいているところ。

#### 4) 組織体制

令和5年度より校長の下に土木系主任、造園系主任を立てる組織体制とした。その効果については、もう少し時間をかけながら見極める必要がある。

## 委員の意見

(下原) 業務効率化、IT化をするというが、教員のIT教育は進んでいるのか？

(三上) これから北海道オフィス・マシンに依頼して講習してもらう予定である。

(古城) 優秀な学生を取りたいというが、面接もしているのか？

(三上) 数学・作文・面接を行っている。現在、本校の広報担当者が施策を考えている。成績優秀者には学費の一部免除をする案。クラス内にけん引する学生がいると全体の成績が上がってくる。

(古城) 入試の段階でインセンティブがあることで良い学生が集まり、正のスパイラルが生まれると考える。

## Ⅲ 教育活動

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

### 1 報告

- 1) ⑩要件を備えた教員の確保
- 2) ⑩学園祭等行事が行われていない。
- 3) ⑪定期試験、追試験の実施に困難を生じた。

### 2 改善方針

- 1) 2年制環境土木工学科、造園緑地科で各一名ずつ要件を備えた教員を確保する。  
それまでは、IT化を促進させ教育及び業務の効率化を図る。専門教科担任制により、入学から卒業まで一貫し教育指導を行うことにより、密度の高い教育を行う。
- 2) 3年間学園祭等は実施されていないことから、教育目標の確認・共有のうえ体制を組み実施する。
- 3) 単位取得にあたり本試験、不合格者に再試験・再々試験・特別試験を実施していたが、学生によっては期間中に再試験・再々試験を終了することが困難であった。そのため再々試験は実施せず、代わりに定期試験前に学習を促し受験をさせるとともに、万が一不合格の場合には再試験を受験する前に教科担任から指導を行ったうえで再試験を受験するように制度を変える。

## 委員の意見

(下原) 教員を集める具体策はあるのか？

(三上) 造園では、令和6年度に向けて、医療大学の植物園を管理している方を採用する目途が立っている。土木は1名採用できたが、年齢が60代である。IT化に対応できる若手を必要と考えている。

(下原) どの業種も人材不足で、大学でさえ不足している時代である。業界も互いにヘッドハンティングが行われている。北大も入学生だけでなく教員を確保するために、寒地土研、民間（特にコンサル）にも声をかけている。業界誌だけでなく、広く一般社会人も含めて発信した方が良いのではないか。建設業以外にも教育に興味を持っている層はいると考える。

<令和5年度前期の報告>

### 1) 教員

教育活動の中で、学生へのハラスメントにより専任教員1名が6月に関連会社に出向、非常勤講師1名を10月に論旨解雇とした。そのため非常勤講師4名を採用し、所定の教育課程を実施している。ハラスメント防止や暴力返上に向けて、教員の自覚と研修の在り方が問われそうだ。

また、造園緑地科の教員1名が契約満了のため退職した。

令和6年度には土木系1名、造園系1名を採用予定である。教員としての自覚を持ち、責任をもって学生指導にあたる人材に育成していかなければならない。

## 2) 学校行事

Ⅱ 学校運営 2) に記載

## 3) 定期試験・再試験

再試験の方法を変更し、前期 2 回の定期試験が終了した。再々試験を廃止し、再試験の前に指導期間を設けたことで、学生の緊張感の高まりと学習効果の向上も見られたと考える。再試験の形骸化と再試験事務の負担軽減にもなった。ただし、再試験が 1 度のため、教員側が不合格をつけにくくなり、成績評価が甘くなる面も感じた。前期では、再試験の不合格が土木 1 年に 12 件（社会科学）、土木施工管理科に 1 件（構造力学）ある。学生 1 人につき不合格教科が 6 教科以上になれば留年と定めている。

## 委員の意見

（山口）非常勤講師の解雇もハラスメントか？

（三上）暴力によるハラスメントがあった。

（古城）学力不振での留年も実績としてあるのか？

（三上）昨年度あった。測定の課題が提出されず、指導を重ねたが学生が約束を違えたため留年とし、結果的に退学した。

（下原）学生の教育を受ける姿勢の低下が、教員のハラスメントが起きたことにも繋がるのかわからないが、良くない状態になっている。先生の人数と年齢、体力も勘案し、学校の根本的なところから見直すことも必要ではないか。

（一色）参考エピソードとして。寝坊で登校しない学生を担当が下宿まで迎えに行っても、すぐ学校に来るよりも朝シャンが優先。クラスで上位の成績を取るような学生でもそのような感覚である。話して聞かせるしかないが、本人は遅刻したくらいで学校に何の迷惑をかけるのかわからないという。

（下原）学生が変化する中、学校はどうしていくのか？

（三上）カリキュラムについては見直しも検討する。

（下原）教員不足の対応案として、土木・造園の共通科目を一緒にするのはどうか？効率を考えていくことが必要。

（三上）現在も共通科目は合同授業を行っている。

（古城）学生は自身のマナーについて問題意識がないのか？就職に影響しないのか？

（三上）公務員就職には成績証明書や内申書は求められない。

（古城）就職に影響しないのであれば、学生の意識が薄くなるのは頷ける。

## Ⅳ 学修成果

＜令和 4 年度後期の報告と令和 5 年度の改善方針＞

### 1 退学及び休学者

[退学]

なし

[休学]

なし

## 2 資格取得及び就職状況

### [資格]

・ 2級造園技能士	7 / 7名合格 (100%)
・ 2級造園技能士 (学科のみ受験)	1 / 1名合格 (100%)
・ 2級園芸装飾技能士	受験者なし
・ 3級造園技能士	6 / 7名合格 (85.7%) ※1名学科試験のみ不合格
・ 3級園芸装飾技能士	7 / 7名合格 (100%)
・ 3級ブロック建築技能士	4 / 4名合格 (100%)
・ 2級土木施工管理技士 (1次)	後期 32 / 34名合格 (94.1%)
・ 2級造園施工管理技士 (1次)	後期 17 / 17名合格 (100%)
・ 2級管工事施工管理技士 (1次)	後期 0 / 2名合格 (0%) ※4名欠席
・ 2級建築施工管理技士 (1次)	後期 受験者なし
・ 2級ビオトープ施工管理士	9名受験
・ 生物分類技能検定3級	1 / 4名合格 (25%)
・ エクステリアプランナー2級	受験者なし
・ グリーンマスター認定試験	2名受験
・ 技術士補 (土木・森林)	森林部門2名合格

### [就職]

#### 学生の就職決定状況

学 科	学生数	うち、 企業委託	うち、民間企業 (委託生含む)	うち、 公務員	就職を 希望しない
環境土木工学科 2年	19	0	7	11	1
造園緑地科 2年	15	0	7	7	1
測量情報科	18	16	18	0	0
環境土木・造園施工管理 科	23	23	23	0	0

・ 国家公務員 (一般・大卒・土木)	最終合格	2名
・ // (一般・大卒・林学)	最終合格	2名
・ // (一般・高卒・技術北海道)	最終合格	3名
・ // (一般・高卒・林業)	最終合格	1名
・ // (一般・社会人・技術北海道)	最終合格	1名
・ // (一般・社会人・農業土木)	最終合格	2名
・ 北海道職員 (総合土木A) 第1回	最終合格	1名
// 第2回	最終合格	1名
・ // (総合土木B)	最終合格	4名
・ // (林業B)	最終合格	3名
・ 滝川市 土木	最終合格	1名
・ 札幌市 (短大の部) 土木	1次合格	1名 → 2次不合格
・ 石狩市 土木	最終合格	1名
・ 江別市 土木	最終合格	1名
・ 小樽市 土木	1次合格	1名 → 2次不合格
// 社会人	最終合格	1名
・ 弘前市 行政	1次合格	1名 → 2次不合格
・ 民間企業 環境土木工学科	内定	7名
造園緑地科	内定	7名
測量情報科	内定	2名
・ 企業委託生		39名

### 委員の意見

(下原) 社会人で本校を受験する人は、本校をどのように知ったのか？

(三上・阿部) インターネット検索、親戚の紹介。

(下原) 社会全般で離職率が上がっているので、今後、離職者の受け皿として専門学校への社会人の入学が増えるのではないかと予測している。ホームページがきっかけであれば、社会人用のページを整えてはどうか。





[就職]

学生の就職希望状況 (表-4)

(人)

学 科	学生数	うち、 企業委託	うち、民間企業 (委託生含む)	うち、 公務員	就職を 希望しない
環境土木工学科 2年	17	4	8	9	0
造園緑地科 2年	8	0	4	4	0
測量情報科	21	21	21	0	0
環境土木・造園施工 管理科	23	21	22	1	0

- ・ 国家公務員 (一般・大卒・土木) 最終合格 2名 (開発局 2)
- ・ " (一般・大卒・林学) 最終合格 3名 (林野庁 2、運輸局 1)
- ・ " (一般・高卒・技術北海道) 最終合格 4名
- ・ " (一般・高卒・林業) 受験者なし
- ・ 北海道職員 (農業土木 A) 最終合格 1名
- ・ " (総合土木 B) 最終合格 1名
- ・ " (企業局 B) 最終合格 1名
- ・ " (林業 B) 受験者なし
- ・ 兵庫県職員 (社会人・林学) 最終合格 1名
- ・ 富山県職員 (大卒・林業) 最終合格 1名
- ・ 中標津町 (土木) 最終合格 1名
- ・ 別海町 (土木) 最終合格 1名
- ・ 民間企業 環境土木工学科 内定 5名 (東海建設、松本組、堀松建設工業、鈴木東建、西江建設)
- ・ " 造園緑地科 内定 3名 (コクサク、塚本造園土木、横山造園)
- ・ " 環境土木・造園施工管理科 内定 0名
- ・ 企業委託生 47名

委員の意見

- (下原) 測量士補の資格は、土木と測量の学生は全員受かって卒業していくのか？
- (三上) 校内学力試験に合格しないと卒業できない規程としている。近年は全員受かっている。
- (下原) そのような厳しさ、自分を奮い立たせるような仕組みが必要。
- (古城) 入口を狭められないなら、出口を厳しくするやり方もあるのでは。社会人の考え方を学校にそのまま適用するのは難しいが、それでもギャップを埋めていかなければ。
- (下原) わからない所を先生に個別に聞きに来る学生であれば先生も応援したいと思えるが、そういう学生ばかりではない様子。

(三上) わからないことを聞きに来たとしても試験直前である。学生を残して指導しようとしても、成績不振の学生ほど早く帰ることを優先する。

## V 学生支援

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

### ①経済的支援

「学校独自の授業料免除制度」「国の修学支援新制度（給付奨学金＋入学金・授業料免除）」、「専門実践教育訓練給付金（社会人）」、「長期高度人材育成コース（社会人）」が利用できる。

「長期高度人材育成コース」で令和5年度環境土木工学科2名を募集したが、応募者がいなかった。

②企業が利用できる「人材開発支援助成金」に新しいコース「事業展開等リスクリング支援コース」が創設された。従来よりも助成率がUPすることから、企業に周知しているところである。

### 委員の意見

(下原) 北の森専門学院には助成金があるので、建設省でも助成金の創設を検討しているようだが、まだ返答はない。国の方針で教育、子供支援が進められると思うが、今後、私学にはどのくらい補助があるのか不透明である。ますますギャップが生まれる懸念がある。

<令和5年度前期の報告>

### 1) 経済的支援

①「学校独自の授業料免除制度」「国の修学支援新制度（給付奨学金＋入学金・授業料免除）」、「専門実践教育訓練給付金（社会人）」、「長期高度人材育成コース（社会人）」が利用できる。

「本校独自の授業料免除制度」・・・83/95名の学生が学費免除を受けている。

「国の修学支援新制度」・・・環境土木工学科6名、造園緑地科2名が利用中。現在は住民税非課税世帯とそれに準ずる世帯が対象だが、令和6年度より多子世帯と理工農系学科に通う学生にも拡充される。文科省発表「理工農系学部学科の対象機関リスト（令和5年10月12日）」に本校4学科とも記載されている。

「専門実践教育訓練給付金」・・・造園緑地科3名が利用中。

「長期高度人材育成コース」・・・該当者なし。

②委託生を入学させる企業は、引き続き厚生労働省の「人材開発支援助成金」が利用できる。各企業は新設された最も助成率の高い「事業展開等リスクリング支援コース」で申請されたと聞いている。例年通り、学年末に学生個々の出欠状況をまとめて報告し、助成金支給申請に使用していただく予定。

③日本学生支援機構奨学金の利用状況（表-5） (人)

	1種	2種	1種+2種併用	給付
土木	4	6	2	6
造園	2	1		2
施工		1		

### 2) 生活・健康・安全支援

①学事課から本校事務局にメールで各種啓発資料が届く。内容は薬物乱用防止、ギャンブル防止、消費者被害防止、自転車盗難防止、デートDV防止など。学生にはその都度、slackで資料を配

信し、公的な相談窓口について周知している。

- ②毎年 10・11 月頃、学校で全学生にインフルエンザワクチン接種を行い、集団で感染予防対策を実施している。ただし、アレルギーや強い副反応を持つ学生は除く。

### 委員の意見

(下原) 本校独自の授業料免除はいくらくらいか？

(亀田) 年額 10 万円程度免除されている学生が多い。高校の成績、資格取得、卒業生の推薦、保護者の年収、社会人入学者に割引をしている。企業委託生は年額 10 万円免除している。

## VI 教育環境

<令和 4 年度後期の報告と令和 5 年度の改善方針>

- 1) 令和 6 年度の 1 人 1 台ノートパソコン保有に向け Wi-fi 環境、教材のデジタル化、教務系 ICT 化を行ってきた。本年度 3 月に Wi-fi 環境の設定は終了する。次年度、教材のデジタル化、教務系 ICT 化をすすめる。
- 2) 学生増加に伴い教室及び実習室の不足が懸念される。

### 委員の意見

(下原) 教室・実習室の不足について、会館の活用は考えているのか？

(三上) まだ会館の整備が十分でないが、必要があれば活用したい。

(下原) 小学校でも 1 人 1 台パソコンを持つ時代で、我々よりもうまく活用できる。IT 化は早め早めに進めた方がよい。

(阿部) 土木実験を 2 班に分けて行っているが、土木実験室の収容人数がギリギリの状況である。

(下原) 建物は使わないと痛むので、会館の活用を考えた方がよい。

(三上) 会館活用の 1 つで、最終手段としてコロナ陽性者が寝泊まりできる準備は整えている。原則は自宅（実家）療養、ホテル療養とする。

(奥内) 造園協会は技能士を育成している。造園会社としても若手の獲得が厳しい状況である。学生には早い段階から 3 級・2 級を受けてもらい、関心を高めてもらっている。採用枠を増やしているが、なかなか受験されない。造園会社によっては十分に教育体制が整っていない場合もあるが、2 級を合格している人はある程度仕事についてくることが評価されている。離職もしにくい。

技能士実技試験を Youtube 視聴により独学で受験した方もいたが、合格基準に照らすと低い評価だった。IT 化を進める風潮があるが、造園技術は実際に目で見ないと継承できないと考える。

### <令和 5 年度前期の報告>

#### 1) IT 環境

学内の Wi-Fi 環境を整備した。現在、教職員用のノート PC13 台（内 6 台は CAD ソフトに対応できるスペック）を購入し、Microsoft365 のセットアップをしているところ。今後、アプリケーション使用方法の講習やファイルの共有・管理のルール設定など、システム構築を進めていく。

#### 2) 教室の設備 プロジェクター

各教室に設置しているプロジェクターが老朽化しており、スライドの文字が小さいと不鮮明で見えないとの声があった。現在、3-2 教室では新しめのプロジェクター（イーエス総研より借用）を使用しているほか、少人数のクラスではデスクトップのモニターに映している。令和 6 年度より学生にノート PC 必携させることから、手元で鮮明に見ることができるほか、紙の教科書やプリント印刷の削減に繋がると考える。

### 3) 教室の設備 エアコン

今年は異例の猛暑で夏季集中授業への支障が大きかった。エアコンを設置している教室が 3・2 教室（最大 90 人）、情報処理室（最大 28 人）、図化室（8 人程度）の 3 部屋しかない。北海道職員の技術研修のため情報処理室が使えず、エアコンのない教室での授業を余儀なくされるクラスがあった。学事課からエアコンの設置状況についての調査があり、行政も動く様子がある。来年度はイーエス総研が新社屋を建てるので、猛暑の場合には旧社屋を教室としてお借りできるとの話をいただいている。

### 4) 教室の配置

学生数の増加に伴い教室が不足しており、4-1 教室を測量情報科のホームルームおよび合同教室として使用している。人の出入りが多いので私物の管理、コロナ感染、他の授業をしているためホームルーム教室に戻れないなどの気苦労がある。土木実験については、今年度も 2 班に分けて実施している。

### 5) 森林実習地

国有林を学校林「遊々の森」として森林実習で利用している。イーエス総研が所有する当別の森林を利用させていただき、森林計画・管理の授業に役立てる。

### 6) 物品整理

古いパソコンや実験器具、図書や雑誌などが多数保管してあり、施設をひっ迫させている面がある。必要性を見極め、整理整頓していきたい。

## 委員の意見

(山口) エアコンのない教室への設置はしないのか？

(三上) 今のところ新設は考えず、イーエス総研の旧社屋を利用させてもらう予定。旧社屋の Wi-Fi 整備とエアコンの新設、どちらの方が費用を抑えられるか比較する。

## Ⅶ 学生の受け入れ募集

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

学科\入学年度		H30	H31	R2	R3	R4	R5
環境土木 工学科	体験参加数	33	37	23	34	22	31
	出願数	29	33	19	23	19	23
	入学数/定員	26/25名	23/25名	15/25名	21/25名	17/25名	19/25名
	定員充足率	104%	92%	60%	84%	68%	76%
	委託生の割合	1/26名 3.8%	4/23名 17.4%	2/15名 13.3%	0/21名 0%	4/17名 23.5%	2/19名 10.5%
造園緑地科	体験参加数	15	8	12	26	13	12
	出願数	10	5	2	18	9	9
	入学数/定員	8/20名	5/20名	2/20名	17/15名	8/15名	9/15名
	定員充足率	40%	25%	10%	113%	53.3%	60%
	委託生の割合	0/8名 0%	0/5名 0%	0/2名 0%	0/17名 0%	0/8名 0%	0/9名 0%
測量情報科	体験参加数	6	17	10	11	13	18
	出願数	15	15	15	16	20	22
	入学数/定員	12/10名	14/10名	15/10名	15/15名	18/15名	21/15名
	定員充足率	120%	140%	150%	100%	120%	140%
	委託生の割合	9/12名 75%	13/14名 92.9%	15/15名 100%	15/15名 100%	16/18名 88.9%	21/21名 100%
環境土木・ 造園施工 管理科	体験参加数	7	8	19	5	8	17
	出願数	22	20	33	21	23	24
	入学数/定員	20/10名	18/10名	30/10名	20/15名	22/15名	24/15名
	定員充足率	200%	180%	300%	133%	146.7%	160%
	委託生の割合	20/20名 100%	16/18名 88.9%	30/30名 100%	17/20名 85%	22/22名 100%	22/24名 91.7%
全 体	体験参加数	61	70	64	65	56	78
	出願数	76	73	69	78	71	78
	入学数/定員	66/65名	60/65名	62/65名	73/70名	65/70名	73/70名
	定員充足率	101.5%	92.3%	95.4%	104.3%	92.9%	104.3%
	委託生の割合	30/66名 45.5%	33/60名 55%	47/62名 75.8%	32/73名 43.8%	42/65名 64.6%	45/73名 61.6%

1年制施工管理科は全てが土木コースを希望しており造園コースの希望者はいない。造園建設企業へのアンケートによると、工事受注の観点から土木工事を主体とした造園施工管理技士が必要であることから、造園コースでは土木工事を中心に科目を設定し施工監理技術者養成に特化する。在学中に2級土木および造園施工管理技術検定1次試験の取得が可能なカリキュラムの編成を行い、造園コースへの企業委託生を募る。1年制と2年制の役割を再度明瞭にする。

### 委員の意見

- (下原) 体験参加者のうち出願しなかった方の理由は？
- (三上) 大学、北の森専門学院、友達の同伴など。
- (下原) 経済的負担で進学を諦めている人もいるのではないか。
- (三上) 独自の学費免除が多くに利用されている。造園の方はハローワークの助成金も活用されている。
- (下原) 土木の方はハローワークの助成金は使えないのか。
- (亀田補足) 環境土木工学科は測量士補が取れる学科であり、測量士補が取れる学科は1年制のみが助成金の要件となっているため、使うことができない。

<令和5年度前期の報告>

(表-6)

2023年11月15現在

学科\入学年度		H31	R2	R3	R4	R5	R6
環境土木 工学科	体験参加数	37	23	34	22	31	14
	出願数	33	19	23	19	23	11
	入学数/定員	23/25名	15/25名	21/25名	17/25名	19/25名	
	定員充足率	92%	60%	84%	68%	76%	
	委託生の割合	4/23名 17.4%	2/15名 13.3%	0/21名 0%	4/17名 23.5%	2/19名 10.5%	
造園緑地科	体験参加数	8	12	26	13	12	15
	出願数	5	2	18	9	9	7
	入学数/定員	5/20名	2/20名	17/15名	8/15名	9/15名	
	定員充足率	25%	10%	113%	53.3%	60%	
	委託生の割合	0/5名 0%	0/2名 0%	0/17名 0%	0/8名 0%	0/9名 0%	
測量情報科	体験参加数	17	10	11	13	18	11
	出願数	15	15	16	20	22	15
	入学数/定員	14/10名	15/10名	15/15名	18/15名	21/15名	
	定員充足率	140%	150%	100%	120%	140%	
	委託生の割合	13/14名 92.9%	15/15名 100%	15/15名 100%	16/18名 88.9%	21/21名 100%	
環境土木・ 造園施工 管理科	体験参加数	8	19	5	8	17	17
	出願数	20	33	21	23	24	21
	入学数/定員	18/10名	30/10名	20/15名	22/15名	24/15名	
	定員充足率	180%	300%	133%	146.7%	160%	
	委託生の割合	16/18名 88.9%	30/30名 100%	17/20名 85%	22/22名 100%	22/24名 91.7%	
全 体	体験参加数	70	64	65	56	78	57
	出願数	73	69	78	71	78	54
	入学数/定員	60/65名	62/65名	73/70名	65/70名	73/70名	
	定員充足率	92.3%	95.4%	104.3%	92.9%	104.3%	
	委託生の割合	33/60名 55%	47/62名 75.8%	32/73名 43.8%	42/65名 64.6%	45/73名 61.6%	

※参加者のうち出願可能の人数

1) 学生募集

各種 WEB 進学媒体 (スタディサプリ、マイナビ、みん校など) に掲載しているほか、入学相談員が進学相談会や高校訪問で PR している。資料請求時に希望分野が登録されている方には、通常の資料発送の後さらに関連資料を送り、本校のことを印象付けるようにしている。体験入学の参加者で出願のない者には、改めて手紙を送っている。

2) ホームページ

お知らせには公務員や資格の最新合格状況を、ブログにて学生インタビューを多数公開している。

3) SNS

公式 LINE で個別の質問事項に対応している。X やインスタグラムは開設していない。

4) 入試制度

一般、社会人、企業委託生、造園緑地科のみ AO・学校推薦・指定校推薦の入試制度で実施している。入学者の質を向上させる目的で、2年制学科に特別コースの設定を検討している。高校の偏差値、本人の成績により基準を設け、学費の一部を免除する想定である。本校が選定した高校から1名ずつでも毎年学生が来るようになれば定員も安定すると考えている。公務員の大卒区分や1級施工管理技士1次合格の実績に繋げ、本校の広告塔とする狙いがある。

### 委員の意見

(下原) 入学相談員が高校訪問をした結果、高校や高校生の現状などの情報提示をいただければ嬉しい。

(三上) 次回の委員会で用意したい。

## Ⅷ 財務

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

### 1) 入学生の確保

2年制の学生増加をめざすとともに、1年制造園コースの学生増加を目的として1年制環境土木・造園施工管理科の学生増加を目指し活動する。

### 2) 教職員の協働

専門教員による担任クラスの一貫的教育体制にすることで教育密度を上げるとともに、IT化により業務の効率を図る。本校の教育目標を担える若手の人材を確保する。

### 委員の意見

特になし。

<令和5年度前期の報告>

### 1) 入学生の確保

募集状況は前述の通り。企業委託生が依然として好調であるが、環境土木・造園緑地科造園コースの希望者は現在1名である。造園コースの内容PRが不足している。

### 2) 教職員の協働

前述の通り。

### 委員の意見

(下原) 学校経営には学生募集が大事であるが、教員確保やIT整備にかかる経費、どちらを優先するのか難しいところだと思う。カリキュラム、先生の数等を勘案して、根本的に見直す時期が来ていると思う。

## Ⅸ 法令等の遵守

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

1) ポストコロナでは、対面授業を主とし緊急災害時など登校が出来ない場合等において遠隔授業などを利用し適正にカリキュラムを履行したい。

2) 車移動などが予定されているが、あくまでも第一に安全に配慮した計画を立てる。安全に配慮できない場合は、内容変更など他の計画を考える。

3) 4月から勤怠管理システムが稼働することに伴い、就業規則の変更が行われる。その中でIT化や機械化などで生産性の上がる方法を構築していく。

### 委員の意見

特になし。



### <令和5年度前期の報告>

#### 1) カリキュラムの履行

時間割や担当者の変更はあったが、所定のカリキュラムを履行中である。

#### 2) 交通安全

森林実習や測量実習で車移動をする場合にはレク保険をかけている。運転前にはアルコールチェックを実施し、事故や違反はない。

#### 3) 勤怠管理システム

イーエス総研に準じて勤怠システムにて管理されている。申請がやや煩雑に感じるが、徐々に操作に慣れてきている。

#### 4) 情報公開

職業実践専門課程や高等教育の修学支援新制度の対象校として認定を受けるため、必要とされる情報をホームページで公開している。

#### 5) ハラスメント

学生へのハラスメントという遺憾な行為があり、処分は前述の通りとした。再発防止対策として、教職員にアンガーマネジメント研修（11/20 予定）、学生には定期的にアンケートを実施する。

### 委員の意見

（下原）ここには当てはまらないが...教員は外部研修などを行っているのか？

（三上）北専各連主催で8月と12月に教育研修がある。

（下原）全員受講するのか？同じ先生ばかり受けていることはないか？

（三上）平日にあるので受講できるのはその日に授業のない教員になってしまう。

（下原）各種研修が対面とオンラインのハイブリッド型になってきている。外の情報を早めに入れることが必要。

（伊藤）時代の変化とともに子供の資質が変わっている。今まで通りのやり方では通じないことを教員も自覚しなければならない。システム自体の、カリキュラム数、指導の到達レベルを見直すことも求める。これまで広報としては「資格合格率100%」を強く打ち出してきたが、必ずしも100%を目指す必要はなくなってきたのではないか。やらない学生に対してそこまでかける必要があるのか。ドライな面も必要となる。学校が継続していくためには収入も安定しなければならない。企業委託生の学費免除も含め学校独自の学費免除制度を見直すことも、各企業の皆様にご理解いただきたい。